

海外芸術家招へい研修了報告(後半)

日本の児童劇が沈滞している理由

高 順 徳

(韓国児童劇作家)

(3) 研修成果の活用計画
近くは韓日共同制作の児童劇作品構想、遠くはアジアの底辺に流れている文化的力量を集めてアジア演劇が進むべき道を探索しつづけようと思う。

まず、韓日共同制作作品は、韓日両国の優秀な伝統文化の脈を引き継ぐと同時に、歴史的に解決されていない政治的反感を乗り越ええる人類愛を表現しようと思う。

こういつたことを通じて、子どもたちには過去の民族史に対する治癒はもちろん、未来社会をとともに生きていくために励ますことができるだろう。

韓国のパンソリと日本の歌舞伎、韓国のタルチュム(仮面劇)と日本の獅子舞など、過去の東洋芸術精神で重要とされた象徴性を21世紀にどういうふうに継承・発展させるかという課題を粘り強く研究・拡大すると、結果的にはアジア文化を土壌とする新しい児童劇に対するビジョンが可能であると考える。



No. 89 (2005. 4)
国際児童青少年演劇協会
日本センター
〈略称・アシテジ〉
〒102-0085 東京都千代田区六番町13-4 浅松ビル2A
TEL 03 (5212) 4773
FAX 03 (5212) 4772
Mail: centre@assitej-japan.jp
Web: http://www.assitej-japan.jp/
発行者 アシテジ日本センター

日本で有名な児童文学で多くの劇団で公演しているにもかかわらず、他の劇団の間ではその事実を知らない場合もあった。

10〜20年前に比べて現在の日本の児童劇が沈滞している理由は、もちろん劇団の制作費不足にもあるが、何より日本の児童劇作品を一所に集めて各作品のレベルを見計らいふるいにかけ、濾すような制度の不在に起因すると考えられる。即ち、文化部の支援で行われる韓国ASSITEJのソウル児童演劇フェスティバルのような、各劇団を刺激させるような大きい演劇賞やフェスティバルのような求心点が必要である。また、成城学園初等学校のように学校の中で定期的な演劇授業を奨励するとともに、「教師ワークショップ」などを活性化させるなら、真の意味の教育と演劇の統合が行われることが可能だろうと考える。学校の中で演劇に対する関心が高まる各劇団の作品に對してもより批判的な目で選別することが可能であり、そうなる各劇団には新しい刺激剤が、学生たちには既成演劇と自分たちの演劇をつなげるある奇妙な快感が与えられるだろう。そうなることで、学校で行われる巡回公演も形式的な行事、一回的な行事にとどまらず、質的にも文化を豊かにすると考える。

(前頁より)
て児童青少年演劇の発展に尽力する。

芸術的問題

デンマークの児童青少年演劇は、児童青少年を観客対象として、芸術作品として演劇を上演することが目的であって、児童青少年と一緒に演劇作品を作り上げることではない。

B.T.Sは、子どもたちへのアプローチについて、ガイドラインを設けている。

まず、子どもたちは芸術を享受する権利がある、ということが基本理念である。

子どもたちは空っぽの存在で大人が彼らのために経験を詰め込む対象でなく、彼らは芸術的にも感情的にも大人と同じである。したがって、意味のない単なるエンターテイメントの児童青少年演劇を子どもに見せてはならないのである。つまり、子どもという存在は大人と同じである。

ガイドラインの内容は、(甲)作品には子どもたちに語るべきことが含まれていること、(乙)彼らにおもねるのではなく挑戦すること、(丙)彼らの視点から考えること、(丁)彼らに真摯に向き合うこと、(戊)子どもも芸術ではなく子どもたちの芸術を制作すること、(己)道

アシテジ・アデレード世界理事会報告

小林由利子

(世界理事)

アシテジ世界理事会が、3月7日〜12日、真夏のオーストラリアのアデレード市で開催された。

会長報告

会長報告において、ドイツで新たに児童青少年演劇の雑誌(年3回、30ページ、4000部)が創刊されたということがある。会長は、ドイツ各地、イスラエル、アイルランド、ロシアなどで講演し、アシテジの宣伝に努めておられるとのことである。

事務局長報告

事務局長報告において、アシテジの中東における活動が進展し、ヨルダン・センターを通じて、イラクとも連絡がとれてき

アシテジ日本センター

〈第24回定期総会〉のお知らせ

- ◆ 期日 二〇〇五年5月30日(月) 午後2時
- ◆ 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター棟 一〇六室

徳を語らないこと、(土)愚かなことをしないこと、(祭)子どもたちからのフィードバックに耳を傾けること等である。

さらにB.T.Sは、児童青少年演劇作品を批評するための「質的評価のための七つの規準」(甲)芸術的目的、(乙)脚本、(丙)舞台づくり、(丁)俳優、(戊)観客との関係、(己)劇団の能力、(七)倫理を設定した。

これらの規準にしたがって、お互いに批判し合い、デンマークの児童青少年演劇を高めあってきたのである。

現状と問題点

現在、次の大きな問題点がある。(甲)デンマークの児童青少年演劇は、学校と「結婚」している状態であり、教師とどのように関わるかは常に問題である。(乙)児童青少年演劇の助成金総額が減少傾向にある。(丙)助成金が減少しているにもかかわらず、劇団数は増加している。(丁)テレビやコンピュータなどのメディアとの競争をしなければならぬ。(戊)各劇団の力量に差がある。(己)児童青少年演劇を牽引してきた人達が高齢化し、若く新しい人材が求められている。

【編集委員】石坂慎二、上保節子、菊田朋義、中島 紀、林 陽一、ふじたあさや

将来的に事務局を一定の場所に設置し、事務局と事務局長とはインターネット等を通して連絡し、仕事を各センターに割り当てるなど、その可能性を視野にいれ、継続審議していくことになった。モントリオール州政府から事務局設置に対する助成の提案があるということである。

アシテジ会員規約変更の提案が、ワーキング・グループよりあった。大幅な変更はなく、主に言語表現の統一等がなされた。世界大会で審議決定される予定である。

世界大会

モントリオール世界大会は、9月20日(オープニング19時〜22時)〜9月25日(クローシング16時〜17時)、詳細はホームページ(www.montreal-2005.com及びwww.assitej.org)に掲載されている。アシテジ40周年記念パーティーは、9月24日(19時〜22時)に催される。世界大会と同時に開催されるFESTIVAL MONDIAL DES ARTS OUR LA JEUNESSEというモントリオール児童青少年演劇フェスティバルは、9月30日まで実施される。ホテル等の予約は、インターネットを通して行う。カナダのレミさんより、「日本からのたくさんの方の参加者と期待しています。」とのこと！

たとのことである。日本からの寄付金も役立つことだろう。アルゼンチンの会費未納が続いたため、現地に赴き旧センターを一旦除名にして、新たなセンター設立に向けての話し合いがあったということである。

財務報告

財務担当者報告において、アフリカ諸国での会費未払い問題について指摘があった。事務局長から6月のアフリカ会議で検討するという提案があった。資金調達に関しては、新たにプロジェクトで検討する必要性が指摘された。世界大会において、会費未納国は投票権がないことが再確認された。

新加盟国

事務局と事務局長の関係

規約変更提案

事務局と事務局長の関係についての審議があり、現在は事務局長になった国に事務局が設置され、運営費用を担当国が負担している。しかし、事務局長に立候補するためには、助成金獲得等で諸問題がある。そこで、

観客の子どもたちに向かった意欲的な表現

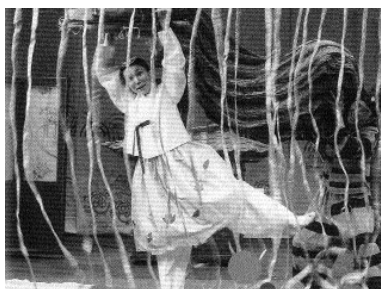
（社団法人、日本児童演劇協会会長）

内木文英

今年（二〇〇五年）三月、「日韓児童青少年演劇祭二〇〇五」という催しが、文化庁平成十六年度国際芸術交流支援事業という助成を受け、日本外務省、駐日韓国大使館、韓国文化院などの後援によって行なわれた。韓国から四つの児童劇団が参加して、東京都、宮城県、鳥取県、静岡県で上演された。韓国でも、日本のイッソフオーリーズ、劇団ひまわりが上演している。

私はその実行委員長というこゝとで（制作などは劇団影法師が担当している）、韓国で選ばれた来日した四つの舞台を全部観せてもらうことができた。東京で観ることのできなかつた舞台は、静岡県まで出掛けていって観た。

韓国の、子どもたちを観せようとして作られた舞台は、韓国で観せてもらった時にも感じていたことだが、観客である子どもの中に飛び込んでいくような、つまり観せてあげるのではなく、観客である子どもといっしょに舞台を作っていくような、



▲劇団子供文化芸術団「オヌリ」

そういう姿勢の伝わってくる舞台ばかりだった。子どものための演劇というものには、もともとそういうものかもしれない。今回の四つの舞台も、そういう意欲を感じさせるものばかりだった。その四つの舞台を観ての感想を記しておく。

○劇団子供文化芸術団「春、夏、秋、冬、オヌリ」（三月十日、東京都渋谷区恵比寿のシアター代官山）。

低年齢の子どもに観せるために創られた舞台のようだ。主人公の少女をめぐって、おばあちゃんや、飼猫が登場する。猫は

強い虎になったがっている。最後にやっとその猫が虎になる。ストーリーと言えば、それがストーリーと言ええるかもしれない。ていねいに作られた大きな竜が舞台をうけまわったりする。観客の子どもたちは大喜びするだろう。

○劇団ジョイフルシアターの『古くからの約束』—改訂版—（三月十四日、シアター代官山）。

前に観た同じ題名の芝居とは、まったく違った内容であった。ミュージカルで、帽子が「夢」「希望」を表現していた。幻想的、象徴的な舞台だった。思ったとおりにはずすまない人生というものを表現しようとしている。そう感じた。開幕前に俳優が観客席をまわり歩き、観客である子どもたちと接触する。そのまま芝居が始まる。ユニークな演出だと感じた。



▲劇団ジョイフルシアター「古くからの約束」



▲劇団尊い人々「子犬のうんち」

○劇団尊い人々の「子犬のうんち」（三月十六日、シアター代官山）。

絵本として評判をとった作品であるという。かわいい子犬があらわれて「うんち」をして、ニワトリなどにいじめられる。このかわいの子犬が主役だと思つて観ていたら、主役は「うんち」であった。タンポポなどにまわりついて「こやし」として生きる。なにしろ一生懸命な舞台で、その意欲的な表現に心をうたれた。

○劇団銀世界の『オフィーリアと影の一座』（三月二十四日、静岡県磐田郡竜洋町「なぎの木会館」）。

「モモ」の作者であるミヒヤエル・エンデの作品を脚色したものである。声が小さくて女優になれず、プロンプターをしていた老女が、劇場もこわされ、住む家からも追い出される。舞



▲劇団銀世界「オフィーリアと影の一座」

私は心理学者の子安美智子さん（元早大教授）から、ミヒヤエル・エンデの亡くなる前の話を聞いたことがある。知人たちに「生きていくうちに別れの会をやりたいから、赤いバラを持って集まってほしい」と言ったそうである。「私は未知なる国に旅立つことになる」と、そこでエンデは挨拶したという。そのエンデの言葉を思い出しながら、私はその「オフィーリアと影の一座」という舞台を観た。エンデの心意気のようなものが伝わってくる舞台だった。

デンマークにおける児童青少年演劇

経営と芸術的發展

エガート・クラウス氏の講演記録

文責 小林 由利子

（川村学園女子大学）

国際交流基金の文化人短期招へい事業で来日されたアシテジ世界理事でアシテジデンマーク副会長のエガート・クラウスさんの講演が2月28日国立オリンピック記念青少年総合センターで、3月2日笹塚の大原区民集会所で開かれた。これはその記録である。

デンマークの児童青少年演劇のはじまり

それまでも学校向け劇団が存在し、昔話やアンデルセン童話などを劇場で子どもたちに見せていたが、1968年に始まる学生運動の影響を受け、公立劇場付属でないフリー・グループ（独立した児童青少年劇団）が、巡回公演活動を始めた。政治的運動の一環としてのフリー・グループの活動は、未来への期待をはらみ、社会変革の手段として、演劇で子どもたちのための新しいアプローチを模索した。

フリー・グループに対して、政府が、シアター・カウンシル（演劇関係者で構成される）を



エガート・クラウス氏

通して助成を行ったことにより、新しい劇団が活動できるようになった。さらに、フリー・グループが組織作りをし、BTS（デンマーク児童演劇協会）を設立したこともデンマークの劇団の發展を助長した。

劇団の運営

デンマークでは多様なフリー・グループ劇団がある。それは、a 共同経営、s 演出家と評議員、d 演出家と経理と評議員、f 経営者以外はすべてフリー・ランス、g 劇場を持つ劇団と持たない劇団、h ワゴン車だけの劇団、等である。

制作費の調達

ロイヤル国立劇場に60億円、デンマークの全劇団に総額152億8100万円の公的助成があるが、それと比較すると児童青少年劇団に対しては以下のように厳しいものである。

a 政府の助成金は3億900万円で、25〜28劇団に、s 州からは、2億2600万円で、

10〜12劇団に、（ともにシアター・カウンシル経由）d 市町村の助成金は、おおよそ2億7500万円位で、成人向き劇団も含め5〜10劇団に、f 30〜40劇団には全く助成がない、といった状況である。

半額返還システム

デンマークでは、学校や幼稚園や図書館が劇団を呼ぶと、地方自治体が費用の半額を負担してくる。この半額返還助成は、児童青少年演劇だけに限られており、助成対象劇団は公的な制作助成を受けている劇団か、返還委員会の認可を受けている劇団に限られている。

年度の流れ

春、上演演目を話し合い、6

月公的助成金を申請、12月助成金の金額が確定、3月予算計画を修正、4月修正予算の認可、7月年度シーズン開始、といった段取りになる。

ある劇団のお金の流れ

劇団の収入の2/3は公的助成で、残りがチケット収入である。支出の2/3が給料で、残りが制作費そのほかに使われる。俳優の月給は40万円、高いように見えるが、契約期間中のみ支払われるので、高いともいえない。

作品を売るには？

重要なことは、教師たちとの関係である。新しい作品が制作されると、まず馴染みの教師に声をかける。長年にわたつていい関係を作つていくことは不可欠である。特に、各学校に一人の児童青少年演劇に好意的な教師を見つけることが肝要である。次に重要なのが、毎年4月に

開催されるデンマーク国内児童青少年演劇フェスティバルである。各劇団が新作を中心に上演し、バイヤーは一日に5〜6作品を見ることが出来る。その他としては、ポスター、ホームページ、チラシ、ダイレクト・メール、電話などによる宣伝である。

新作制作の流れ

まず、演出、俳優、技術者、デザイナーを雇い、稽古場を予約する。稽古期間は、冬から春にかけて10〜13週間。4月の国内フェスティバルの前に10〜15回の上演を行い、問題点がないか検討をする。この時、馴染みの教師のいる学校で公演し、意見を聞き、参考にする。手直しした新作をフェスティバルで上演する。

BTS（デンマーク児童演劇協会）

BTSには57劇団が加盟している。協会は、最低料金の設定、政府機関への交渉、劇団と被雇用者との交渉、セミナーやワークショップの開催、芸術的發展の促進、等を行っている。ある意味で劇団はライバル同士であるが、同時にパートナーでもある。政府との交渉には一丸となつ（次頁へ）